

一人口の動き—
5月末現在
()は4月末との比較
出生9人 死亡2人
転入9人 転出12人
世帯数 1,279世帯(-2)
男 2,861人 (-3)
女 2,939人 (+7)
合計 5,800人 (+4)

広報

わしま

発行
和島村役場企画課
発行日
昭和55年7月1日
印刷所
(株)第一印刷所



北辰中学校起工式



北辰中学校 建設工事着工

同校の校舎は、昭和二十八年に建築された建物であります。戦後の諸資材の質・量とも不足の時代の建物であり、又たび重なる災害で年々危険度を増している為、この度移転改築することになりました。設計は経験・技術ともに豊富な株式会社細貝建築事務所(長岡)に委託し、鉄筋コンクリート造三階建延べ面積三、八三〇㎡で概要は普通教室・管理室棟一、七一〇㎡、特別教室棟一、四四三㎡渡りローカ棟二、三七㎡、給食・食堂棟四四〇㎡です。建築工事は株式会社水倉組が来年七月末までの工期で、去る六月十三日起工式を挙行し着工いたしました。

生かして使おう 石油・電気・水

7月の心配ごと相談

日時……5日 午前9時から
正午まで
15日・25日 午前9時
から午後3時まで
場所……福祉センター相談室
内容……生活相談・医療相談・家
事相談・児童相談・身障
相談・職業相談・その他
なんでも

読書サークル
父と子の宿命的な対立が
和解されるまでを描く……。
(志賀直哉作品「和解」)
誰もが父・母となつてゆく時を
考えてみたことはありませんか?
『自由なまま』に話し合いませんか。
時 七月九日・夜七時三〇分
所 総合福祉センター憩の間

7月の保健衛生行事

日	曜	種 目	対 象	時 間	場 所
30	水	子宮ガン検診	一般婦人	午前10時~12時	"
25	金	循環器指導会	個人通知のあった人	"	"
24	木	一、六カ月児検診	個人通知のあった幼児	午後一時半~三時	"
17	木	ツベルクリン判定	ツベルクリンを受けた乳児	"	"
16	水	日本脳炎予防接種	申し込みした保育園児	午後一時半~二時半	"
15	火	ツベルクリン	通知のあった乳児	午後一時半~二時	"
10	水	妊婦検診	妊 婦	午後一時半~三時	"
9	火	日本脳炎予防接種	申し込みした保育園児	"	福祉センター
7	日	乳児検診	乳 児	午後一時半~二時半	"

国の守りは君達だ! 集え! 若者!!

国にとって大切なことはたくさんあります。産業、貿易、文化等も国の繁栄にとっては大切です。しかし国民の生命と財産、国土と国家の平和を守ることは、他のなにものにもましてゆるがすことのできない重要な仕事です。
陸上自衛隊は国土防衛のために
海上自衛隊は海上防衛のために
航空自衛隊は空防衛のために
あいたずさえて活躍しています。
これら自衛隊を支えているのは
若い自衛官です。
詳細は、役場企画課又は自衛隊
新潟地方連絡部柏崎募集事務所へ
電話〇二五七二一四一三〇〇〇



旧陸海軍看護婦実態調査の実施について……

このたび、かつて陸海軍の病院などに属して、陸海軍看護婦として勤務された方々について、陸海軍に勤務された職歴などの実態調査を行い国の資料とするのになりました。
〔調査の対象者〕
調査は、陸海軍看護婦(看護婦長、看護生徒を含みます。)で、陸海軍の病院などに勤務されたことのあるすべての方々を対象といたします。ただし、日本赤十字社の救護看護婦として勤務した方及びすでに死亡された方は除きます。

〔調査する事項〕
調査する事項は、旧陸海軍看護婦としての職歴、個人で持っておられる在職に関する資料、看護婦免許の事などです。
調査の方法は、国による広報のほか、県・市町村及び関係団体の協力を得て各種広報活動を行ってこの調査の周知を図り、申し出のあった調査の対象者及び厚生省で保管している一部の名簿にもつき現住所を調べて確認した方々に「旧陸海軍看護婦実態調査票」を県庁援護課から市町村に配布して、これに本人から記入していただくことになっております。
なお、この調査票は県庁援護課や市町村役場主管課に用意してあります。

〔調査結果の集計〕
調査票は、市町村が取りまとめたものを県が回収し、厚生省において所定の事項について集計が行われます。
※詳しいことは、
県民生部援護課(電話二二一五五一)内線三一八〇、又は市町村役場主管課にお問い合わせください。

〔調査の期間〕
本人は現住所の市町村役場へ七月三十日までに提出すること。
調査は昭和五十五年六月から同年八月までの三ヶ月の間に行われます。

飛び出すな 車のあとにまた車

人事異動

—昭和55年7月1日付—

	新	旧
松永一市	税務課長	産業振興課長
水沢文夫	企画課長	建設課長
若井勇	産業振興課長	企画課長
久須美実	議会事務局長	住民課長
近藤初男	建設課長	議会事務局長
平沢富重	住民課長	税務課長
狩野勇貴夫	建設課係長	農業委員会
早川忠男	住民課係長	企画課係長
佐々木貞夫	総務課係長(昇任)	
池田悦郎	税務課係長(昇任)	産業振興課
藤井賢計	産業振興課係長(昇任)	税務課
矢部政夫	企画課	総務課
八子勝夫	税務課	住民課
小林善弘	農業委員会	建設課
西野宏	総務課	住民課
三輪栄子	企画課	産業振興課
若井栄市	産業振興課	建設課
久住一雄	住民課	教育委員会
東条春雄	住民課	税務課
小黑宏聡	教育委員会	住民課
早川勝弘	建設課	産業振興課

公民館長に 小黑和一郎氏!

和島村公民館長に小黑和一郎氏が、七月一日付で任命されました。

小黒氏略歴

住所 上桐二、三九六番地

生年月日 大正八年十月十一日

職歴 ○小学校長歴任

○和島村教育委員会委員

教育委員に山田氏

和島村教育委員に、山田八郎氏が、六月定例議会において同意を得、任命されました。

住所 荒巻一、七三七

生年月日 昭和二年四月二十日

公民館長 久住熊三郎氏退任

和島村公民館長として、献身的に本村社会教育の振興に御尽力を賜りました久住熊三郎氏が、任期満了につき、五月三十一日退任されました。

良寛百五十回忌法要

去る六月六日、島崎隆泉寺において良寛様の百五十回忌が催されました。村内外から、県の良寛会々長等来賓を始め会員多数の方々が出席され盛会のうちに無事終了いたしました。また、福祉センターでは良寛様の遺墨展及び小学生の作品展が開催されました。



村長室の黒板から

和島村長 法生 粘谷

五月二十一日、二十三日、村議会研修視察に同行。房総から古都鎌倉へ、何時もの事ながら観光地の接客態度の多様さについて自ら戒めるものがあった。自然を大切にされた古都鎌倉に感銘を深くする。

二十五日、ウオークラリーであいさつ、妙法寺様において日蓮上人七百回忌法要に参列、午後商工会総会出席。

二十六日、二十七日、京都における全国治水大会に出席。

三十日、県町村会総会、本日をもって退職される久住公民館長送別会に出席、その労を謝す。

二日、衆議院選挙告示。午後から北辰中学校建築工事入札を執行し水倉組と仮契約する。価格五億三千万円。

六日、良寛会主催の良寛百五十回忌法要を後援し、村内外の来賓の参列の上盛大な法要が隆泉寺様で営まれた。村内から多額の浄財が寄せられました。多謝

八日、第二八千代老人クラブの創立十五周年記念式に出席。

九日、県河川協会役員会出席。

十日、婦人学級開講式出席。

小島谷駐在所来庁、交通について助言を頂戴する。

十一日、更正保護婦人会出席

十三日、中学建設工事起工式

十四日、与板郷消防署に向き点検と使命感、規律訓練、住民の付託等について署員に要請。

選挙結果

去る六月二十二日行われました、衆議院議員総選挙をはじめ各投票の和島村における結果は、次のとおりでした。

選挙当日の有権者数

男二、〇四六人
女二、一八六人
計四、二三二人

衆議院議員総選挙

○投票者数および投票率
男一、八四〇人 八九・九三%
女一、八七八人 八五・九一%
計三、七二八人 八七・八五%

○候補者別得票数(届出順)
桜井 新 三九八票
三宅 正一 九九票
渡辺ひでお 三六四票
真貝 秀二 二二票
田中 角栄 一、〇四四票
村山 達雄 五三三票
小林 進一、〇九〇票
伊丹善二郎 二票

最高裁判所裁判官国民審査

○投票者数および投票率
男一、八二一人 八九・〇〇%

女一、八六三人 八五・二二%
計三、六八四人 八七・〇五%

参議院議員通常選挙

(地区区)
○投票者数および投票率
男一、八三五人 八九・六九%
女一、八七七人 八五・八六%
計三、七二二人 八七・七一%

○候補者別得票数(届出順)
丸山 久明 一一三票
長谷川 信一、八八九票
しとま 裕一、二二七票

(全国区)
○投票者数および投票率
男一、八三二人 八九・五四%
女一、八七五人 八五・七七%
計三、七〇七人 八七・五九%

○候補者別得票数(得票数一〇〇票以上、届出順)
つるおか 洋 一九九票
岡部 三郎 一〇八票
かすや 照美 六五四票
山口 淑子 二四六票
田沢ともはる 二二四票
井上 孝 四九九票

和島村を訪ねて

日蓮宗妙法寺本山



(七面宮)

籠田より村田の山を見渡せば幾世へつらむ神さびにけり (良寛)

椿の森近から法城の森を眺められた歌だと思えます。この法城と言われる森の中にある妙法寺は今を去る六百七十余年前、徳治二年開基を伝えられています。

南北朝時代、新田義貞に就き北陸の地を固めていた風間信濃守信昭が、妙法六老僧の一人日

(黒門)



昭上人を迎え妙法弘布の殿堂として、現在の治暦寺の所に建て信昭の弟日成を二代とし、三世日蓮と続き隆盛の基を成し、その後、村岡城が廃城になったので現在の場所に移った。

天正十八年と明治維新との二度の火災に遭い、現在の建物は明治初年の再建であります。境内の七面宮は、元禄十二年時の貴主日蓮上人が七面天女を勧請し村田郷の総鎮守とした。本堂門前は、延宝四年の建立で木造茅葺単層黒塗で俗に黒門と言います。

赤門は、参道の中にあり木造銅板葺二重層朱塗の二王門で天和二年、約三百年前の建物で共に和島村の文化財に指定されています。(久住熊三郎氏より)



(赤門)

